

つなぐ



諫早市立大草小学校
特別支援教育
コーディネーターだより
H30.6.8 No.8
文責 林田

☺ 梅雨の合間に… ☺

昨日は、全校児童でプール清掃を行いました。1・2年生は小プール、3年生以上が大プールと分担して、プールの中の壁や床、排水路の汚れをたわしやデッキブラシでこすりました。みんなで頑張ったので、予定時間内に掃除を終えることができました。



このような活動の場では、子どもたちがスムーズに活動できるように、私たちは最初に作業の手順を指示します。1つの活動が終わるとまた次の指示をすることが一般的ですが、発達障害のある子の中には、「先の見通し」がたたないと不安になる子もいます。そのような子どもたちには、予め「見通し」が持てるように作業の手順や時間配分を書いたものを掲示すると安心して活動に参加することができます。



そこで、今回から、発達障害のある子たちへの配慮・支援の方法についてご紹介していきます。

* 自閉的傾向のある児童

☺ 感覚の過敏さ・鈍感さがある場合

特定の音に過剰に反応する、普通に味付けされているのに、特定のメニュー(食材)の物が食べられない…などの状態は、「聴覚過敏」「味覚過敏」などの感覚に過敏さがあることが考えられます。

例えば、学級の中に大きな声に驚いて逃げていくような子がいる場合には、声の大きさに配慮をする必要があります。

また、人ごみなど、たくさんの音が溢れているような場所に行く必要があるときには、右のような「イヤーマフ」で、音を遮断するとよい場合もあります。



味覚過敏の子や、特定の食べ物の食感が苦手という子には、味付けを薄くしたり、苦手とする食材を取り除く・減らすなどの配慮が必要です。



「こんな物がたべられないの？」
「わがままを言っているのでは？」
と思えるような場面もありますが、まずは配慮して様子を見ることが大切です。

ご紹介している方法は、発達障害の有る無しにかかわらず、どんな子にも有効な場合があります。

また、お子さんの困り感、手助けの方法がわからないという場合には、ご相談ください。

一緒に手立てを考えていきましょう。

☺ 見通しが持てないと不安になる場合

1日の予定が分からなかったり、予定の急な変更があったりすると、不安になりパニックを起こす子には、予め行動のスケジュールを分かりやすく示してあげることが必要になります。

次に何をやるかわかっていると、安心して生活することができます。

活動の内容だけでなく、活動時間(5分間休憩など)の見通しを示すことも有効です。



時間割で 見通しを

- ①国語
- ②算数
- ③音楽
- ④体育
- ⑤学活
- ⑥給食
- ⑦昼休み
- ⑧掃除
- ⑨下校

☆ 指示や注意は、短く分かりやすい言葉で

自閉症のある子は、くどくど注意を受けたり、大きな声で叱られることが苦手です。失敗経験を積み重ねると、「どうせ自分なんか…」という思いをもち、自己肯定感や学習への意欲が低下します。

そこで、危険なこと、他人迷惑をかけることなど、「やめさせた方がいいこと」は、短い言葉ときげんとした表情で「○○しません。」というように指導します。

例えば、道路に飛び出しそうになった時、その子と道路の間に立って顔を見て「飛び出しません。」と言います。分かるようになるまで繰り返します。

時には、絵などを使って指導すると効果があります。

飛び出しません。

